

廈門大學圖書館珍藏

主編：季嘯風、沈友益

中華民國史史料外編

——前日本末次研究所情報資料

日文史料
第三冊

廣西師範大學出版社

目 要

黎總統強硬

黎元洪氏は微面微政權を附には懸せず死を以ても之には同意を表せざる由總統府は目下蕭氏氏三百餘の兵を以て守護し居り蕭氏に對しても種々の壓迫あるも氏は湖北出身者にして黎氏とは深き關係あり同じく死を以て黎氏を擁護すべく決意し居れりと云ふ而も南海の居は已むなく之を去ることとし多分本日中東廠胡同の自邸に移遷すべしと云ふ

目 要

發するの運びとはなれるなり一方又
黎總統に對しては梁鼎芬氏を宮廷ま
り王江吳氏等をも赴かしめ梁氏は今
日の狀勢復辟に非れば國家を危きに

致すべし國家の爲め托

復位

げて政體を清室に歸還

せられ度しと論せしも

梁氏はこに答へて成程

民國の成績は謂ふが如

き非難も之れ有るべき

も余は大体に於て國民

的進歩を認むるもの今

日に於て之れを崩壊す

る如きは余の到底同意

する能はざる所なりと

斷として拒絕し翌に至るも遂に則せ

ず民國と清國とは何等の聯絡なく

愈々兩立の形を爲すに至れるなりと

云ふ

●行營の張段の調停

(北京特電九日發)

張勳の幕僚中には復辟擁護、無條件講和を主張するもの多数なれども張勳

は之を肯かず

政權の兵艦を解かれて一平民なるは敢て黙ふ處にあらざるも復辟のみは決して諦念する能はず左れば時勢に於て余が最後の希望を容れず依然復辟に反対せば余は已むを得ず應戦すべし之が爲に北京城内に騷擾を起し人命財産に損害を與ふるも余の知る所にあらず

と張りつゝあり而も段祺瑞は絶対に共和を主張するを

以て調停不可能にして徐世昌、王士珍等も手を下す能はず殊に徐世昌は

從來復辟派の中心人物と稱せられ發て張勳との間に密約ありしにも拘らず今

回の復辟を援助せず却て宣統皇帝に退位を迫るが如き事はタトヒ今回の復辟

に就て張勳との間に意思の疏通を缺き互に面白からぬ感情を抱けりといは

請明に對する私情忍び難しとて断然調停者たることを拒絶

せり是に於てか段は終に兵力に訴へて解決を爲すの外なきが如くなれども

も北京には百萬の人口あり列國使臣も駐在し居れば妄に事を起して義和團事

變を再演するが如きは雙方の好まざる處なるのみならず張勳の兵は到底寡を

以て衆に當る能はざるを知りて殆ど戰意なく部下の將校にして張

勳の命を懸かず終に段祺瑞側に款を通ずるものさへあり此際張勳が自暴自棄

の手段を執らざる限り段軍は若く張軍を威壓して武裝解除を強制する一方に

は皇帝退位民國回復の上諭出づるならん而して段祺瑞は十萬元を懸けて張勳

の首を求め居れどもコハ一の恫喝手段に過ぎず目下北京の有力者も段祺瑞との間に張勳の處分方法に就て協議中なるが此際全然張勳の兵權を解きて天津に閉居せしめ若干の年金を與へて其再舉を防止すべしとの議もあり結局

定武軍の武裝解除、張勳の生命財産保全を條件

●各國公使會議

(北京特電九日發)

徐世昌の上京を促す

九日午前十時和蘭公使館に於て各國公使會議を開き時局に關し協定の結果協和及び復辟の使臣に依り徐世昌の辭職を要するに決定せり尚上海にある伍廷芳は依然外交總長たる事を通告したるも公使團は之を冷笑し各國公使館を上海に移す能はざるを如何せんといふの報告を求めず

目 要

●復辟の裏面

張勳は自ら復辟の張本人を以て任じ
 今度も急先鋒として復辟を断行した
 るが而も張勳の連中は憤慨して曰
 く張は決して共和擁護派の爲めに倒
 れたるに非ずして却て復辟の仲間同
 志の爲めに賣られたるなり是れ辯子
 の大に悔しがる所なり凡そ徐州を中
 心として復辟の密策を献ぜざる者の何
 人なるかは世間も大抵知りたらんが
 張辯子の所には血を吸はん許りにし
 て之を頼みたる者文電其他証據の歴
 々存する所なり故茲直る彼は國內
 に復辟を思ふ者此の如く疑なりとな
 し即ち今回の奏上中にも其に關する
 言句ありたる次第なり而して彼は今
 回の上京に於て之を爲さんとは決し
 て考へ居らざりき今回は唯調停せん
 としたるのみ然るに北京に來つて調
 停已に成る徐州に引返さんとする
 三日前忽ち復辟を断行したるは之れ
 は全く他よりの逆通に出でたるもの

にして即ち北京に於ける各兵營の長
 等吳江王其他が非常の決意を以て之
 を迫りたるなり而して此裏面には雷
 震張勳等など云ふ人々ありたるは
 是亦世人の知る所なるが兩氏の如き
 は天地組の大參謀にして李氏と共に
 來ながら忽ち此計畫を起したるもの
 なり是等の連中も復辟賛成者の内幕
 を十分知る居る故苟も復辟せば是等
 の多數は大歡迎を爲すことと信じ居
 たるに相違なし故に張を以て之を爲
 さしめ自分等も首功を分たんとせる
 なり然るに結果は如何是迄の復辟賛
 成者は皆外を向き或は反對を唱へ同
 意を表せるは僅々吉林其他一二に過
 ぎず而も張雷等が最も鋭く秘密迄
 語り合へる者皆今は反對となるされ
 は彼等は段芝貴が共和擁護軍の先鋒
 として兵を率ゐて北京に攻め來れる
 を聞いて果氣に取られ段の共和擁護
 とはと云つて苦笑したりと云ふ程な
 り其他張懷芝や倪嗣冲や趙倜や其他
 の某々等やが共和軍に左袒すと聞い

ては張辯子及策士等一樣に喫驚して
 我國は最う亡國ぢやと叫べるも其に
 無理ならず欺すもの欺されるもの何
 方が愚か比較の限りに非ざれど彼等
 更に冷笑つて曰くあゝ云ふ手合に擁
 護して賣ふ共和こそ氣の毒なれ民派
 こそ目出度けれと以上は張側の場合
 みなれど此間又一分の眞理は含まれ
 居るならん

目 要

●南方側黎氏引渡要求

▽林公使は拒絶せん

上海に在る孫文氏は我が有吉上海總領事に對し目下北京の我が公使館内に避難し居れる黎總統の引渡を交渉し來りたるが之も同時に支那軍艦三隻は黎總統を迎へんが爲めに上海を發し近く秦皇岛若くは芝罘に到着する筈なり云ふ黎總統今後の處置に就ては我が政府に於ても目下攻究中なるが此の際直に民黨側の希望に應じ黎總統を引渡さんか民黨側は黎氏を擁して上海或は其の他の場所に南方假政府を設置し北方に對抗して政治運動をなすべき處ありて我公使館の黎氏引渡は偶間接的内政干渉の結果に陥るの危険あるのみならず黎氏の身邊に即て危険を誘致するの虞なし云ふべからず随つて目下の形勢にては林公使は黎氏の引渡しを拒絶するならん云ふ東京電話

目 要

●派遣隊出發

昨夜午後五時發にて我駐屯軍一個中隊に機關銃若干を携へ星村大隊長以下將校十名米國兵一個中隊將校數名安南兵若干名外に英佛各國將校等房に向ひ出發せり更に京奉鐵路局より工夫を出して破壞されたる線路を修理せしめ前記各國兵之を保護して北京へ入る筈右は豫め兩軍へ通知を爲たる所なり （今朝天津來電） 777

末次研究所

●日米へ調停依頼

外務尚書梁敦彥は六日林公使及び米國公使ラインシェ氏を歴訪し張勳と段祺瑞との調停方を依頼せり （北京特電六日電） 555

初めは敗北の如く終りは勝利の如きは今回の張勳大將軍の行動なるが、昨日は大將軍張勳に於ける定武軍の敗北を聞いて大に怒りを露し本日はいよいよ兵を率ゐて豊台に出勤し砲臺散を蹴散らし聊か張子軍の本色を示したる上我身は花々しく討死せん覺悟と既に自動車を用意せしが何故か忽ち中止し昨日は蓮々の體にて張子軍悉く城内に逃げ込み最早如何とすべからざる形勢とはなり流石の定武大將軍新任内務部政大臣北洋大臣兼直隸總督も手も足も出ず是に於て自ら參内して罪を闕下に謝し一切の官職を辭し且即ち引籠りたるが一日復讐を實行し滿都の空に黃龍の旗を翻させてより一週間はして本の將軍ならんがまだしも全くの本阿彌菩薩首さへもいしきものとはなり果てたも張勳一朝の夢など云ふも愚かなる大言なるがたとへ失敗するにしても何故敗退まで乎の復讐の文字を血に染めて聊か清室を救はし自らも赤心を現はすの工夫を爲さざりしか連人は知らず張大將軍は此位の覺悟は爲し得べしとの批評なりしが聞く所によれば台は張大將軍今日こそ死花を散かせんと身には清朝の大將軍殿を離れ妻子に別していで出でんとする時張大將軍に下り悲しく語を贈りて終つて最後の死戦は其勇をすべき

も斯くて大決戦を爲す上は奮敵心を激し大陣戦死の後清室も亦勇を盡るべし悲はさることながら其勇を盡るせよとありなれば流石の張大將軍をも見て「ロリ」と落涙したるのみにて遂に一言に引籠り人にも殺せざるに至れるなりと

●段氏時局を收拾せん

▽張勳は無條件屈服か

林公使に對する張勳よりの調停依頼に關し其後其筋に達したる詳細に依れば六日張勳は參謀長萬繩栻を林公使の許に派し

今回の復讐は部下に誤られ己むを得ず之に同意したるものにて自己(張勳)の創意に出でたるものに非ず故に今日に於ては自分は一切政治と關係を斷ち後事を徐世昌、段祺瑞に一任すべし但唯君主立憲政體を持続する事は之を切に希望す 茲くは林公使に於て此旨を徐世昌、段祺瑞兩氏に傳電せられ尙韓旋の勞を執られん事を云々

この事を通告せしめたり之に對し林公使は韓旋調停は本國政府の方針に反するを以て之に應ずるを得ずとて之を拒絶し唯張勳の意圖の存する所は之を徐、段等に傳達すべしと答へ林公使は直に天津松平總領事に電訓し段祺瑞側に張勳の意圖を傳達せしめたり之に對し段祺瑞側の意圖は未だ明かならざるも己に共和施設を天下に喧號して立てる行態上君主立憲政體持續を條件とするには直に満足を表せざるべく従つて無條件を要求するならんが張勳も結局無條件にて屈服するの外なからん兎に角段祺瑞は早晚北京に入り時局收拾を請する事なるべしと(東京電話)

末次研究所

●賴甲斐なき復辟派

(北京特電 九日發)

張勳を置去りとなす

前度支部尚書張勳、前陸軍部尚書雷震春は公使館街のグランドホテルに避難し劉廷琛、梁啟彦は賜暇を乞ひ又康有爲は日本公使館の保護を受け復辟の發頭人は何れも動一人を死地に殘して一身の難を免るゝに急なり

目 要

三國公使會議 (北京特電)

英國代理公使及び和蘭公使は十日正午我公使館に林公使を訪ひ定武軍の武裝解除及び張勳助命の件につき協議せり

目 要

●列國干涉を哀願す

(北京特電 六日發)

六日朝外務尚書梁敦彥は日英米三國公使を歴訪し列國干涉を哀願せり然れども目下の處之に應ずるものなしと

ある

●復辟取消の決議

清室王公會議—張勳赫怒す

(北京特電九日發)

清朝は九日午前王公會議を開き協定の結果斷然復辟を取消すに決定したるを以て午後三時江朝宗は此決議を齎して張勳を訪ひ事既に茲に至る最早復辟に執着するを要せざるべしとて無條件降服をなさんと説きしに張勳は江朝宗の言未だ畢らざるに

憤然席を蹴つて立てり江朝宗は止むなく參謀長萬福麟に張勳への勸告を依頼して辭去したりと、尙張勳の幕僚等は張に避難せんことを勸告し張勳は最初之に耳を傾けざりしも結局之を許容したりと

◎張勳は九日利南公使ブロックランド氏に對し其統皇帝退位の上諭を發布すべく準備中なりと語れり(北京特電九日發)

目 要

張勳對段祺瑞

日英兩國の居中周旋

某所に達したる情報に依れば張勳は八日英國公使館に人を派して部下軍隊の武裝を解除し決して北京の治安を紊亂するが如き行動をなさざるにより自身及び部下將軍の生命の安全を保障するやう段祺瑞に傳達せんとを依頼し且右保障の方法として一身を英國公使館の保護に委せんとを申出でたるを以て英國代理公使は取敢ず林公使に右の申出を通じ其意圖を質したるに林公使は北京の治安を維持する必要上之に同意を表し且張勳一身の安全を保障するが上に其私利財利に對しても保障を與ふべしとの一條を附加したり是に於て英國代理公使は天津駐在英國總領事に段祺瑞に對する交渉方を電命すると同時に松平總領事に對しても英國總領事に援助を與へんとを求めたれば天津の日英兩國總領事は協同して段祺瑞に對し交渉せし處段祺瑞は日本政府に於て異存なき限り張勳の申出を承諾すべき旨を回答し且張勳の兵は何等の訓練なきものなれば其武裝を解除せしむるに當り多少の亂暴を敢てし北京の治安を紊亂するの虞なしとせば特に北京警察廳總長趙秉淵に命じて警備をなさしむる必要あることを注意し日英兩國總領事も之を諒ししたり、斯の如くして武裝解除後に於ける張勳及び其部下

の處分は段祺瑞の方針に依りて決せらるべき次第なるが其生命に危害を加へざることは日英兩國總領事に同意したる處に於て明白なり而も段の意は總政治犯人を以て張勳を取敢はんとするもの、如く其方法としては張勳總司令の發佈を見るやも知らくからず(東京電話)
 ◎一説に依れば九日の公使會議は張勳の軍隊をして武裝を解除せしむるべしに張勳及び其部下の生命財產を保障せんとを段祺瑞に申込むとに決したり(北京特電十日發)

●張勳對案提出

(北京特電)
十一日發

▽段祺瑞の提案に對し

十日夜段祺瑞氏より平和解決を希望し來り張勳氏も亦讓歩的となり張氏は段祺瑞、馮國璋、徐世昌に對し十日夜左の通告を發し外交團にも寫を送れり其の太要左の如し

- (一)主義と名譽の爲め寧ろ死せん(二)清室の安全部下の將來を見ぬ中は屈せず(三)北京人民外人の生命財産を考慮するに暇あらず(四)若し願慮せよとならば優遇するに禮を以てせよ(五)進んで攻めず公平且つ道理ある取扱を受くる迄一步も去らず清室に對する忠義を棄てず(六)禮を以てせば予は平和の爲め讓歩せん(七)正當解決の條件に其擔保を示せ然らば讓歩せん(八)外交團は正義人道の爲め此意を解し更に斡旋を請ふ斯くて致に約せる所は寧ろ死せん

●張勳停戰申込

(北京特電)
七日發

▽復辟軍に退却命令

張勳は議政大臣辭職後王士珍は、徐世昌に打電し調停を請ひ直に停戰命令を發せんことを要求し同時に段軍及び曹軍の前進部隊長に書面を送り追て天津より命令ある旨に就き互に停戰を申込み復辟軍には總退却を命じたり

▲張勳辭職と共に徐世昌を迎ふる爲め花を以て飾れる特別列車天津にて準備中なるが徐氏の來るや否や徐氏は尙疑問なれど目下各省に意見交換中にて三四日後何分の返答あるべし(北京特電七日發)

目 要

●張勳の京張線占領(北京特電 五日發延着)

五日午前十時張勳は内閣議政大臣の名を以て京張鐵道に命じ軍隊輸送の必要ありて列車の運轉を停止し西直門停車場を占領せり又張家口に於て第三師團の一部は車輛を押收したり

●蒙古王侯の清朝擁護(北京特電五日發延着)

蒙古王侯は五日聯合大會を開き宣統帝を擁護し飽迄復辟を支持すべしとの決意を爲せり

●清朝擁護軍出動説(北京特電 六日發)

綏遠城都統程德全は兵五千を率ゐる清朝擁護の爲め出發せりとの報あり

●馮霖開捕

北京中なりし奉天二十八師長馮霖氏は二昨日日入國時一師と共に北京を脱出を覺して京奉線に乗り込みたも所天津驛にて空軍警察の巡警に發見直に自動車にて...に送られ拘留されたるか精騎一師は常に馮の輜幕に參し居たるか復辟以來馮の態度を氣遣ひて奉天より行直に馮を伴ひ歸奉せんとしたるも馮此機會に於て更に何事かを企さんと思ひてか直に離れず在英日時を經過せる間に復辟の旗色振はざるを以て愈々斷念二昨日離京したるなりと云して精騎は天津に於て馮の引渡を肯んぜず自動車に同乗然る處に於て馮の傍を離れざる爲め...天津總領事に引取り方を請はれば直に領事館は派出同行し來たりと

張段和戰決定期

(北京特電)
十日發

張勳は飽く迄調停に應ぜず更に王士珍より一應反省を求む可く聞かされば手を引くに決せり段も亦曲同調等を派して平和解決を主とし反省を求めつゝあり張降伏か慘澹たる市街戦となるべきかは十日中に決定すべし

張勳を猛獸扱ひ

(北京特電)
九日發

▽英公使館の迷惑

張勳の進退につき承諾を求められたる英國公使館にては張を猛獸扱ひに決して快諾せず又英人間の輿論も之に反對なりき

張勳を滅すは危険

(北京特電)
九日發

某有力者は某國公使に述べて曰く張勳を北京にて全滅せしむるは危険なり天津に送りて年金を遣るに如かず

張勳買収に應ぜず

(北京特電)
九日發

張勳部下の教化せるは北京商務總會が十萬元を以て買収せる結果なり然れども之に應ぜず

天下に謝罪す可し

(濟南特電)
九日發

▽李慶璋張勳に勸告す

張勳の黒幕として著名なる徐州道尹李慶璋氏は八日馬廠の第八師團に拘留せられしも幸ひに徐州軍隊の投降勸告を誓ひ放免され濟南に來り督軍張懷芝氏

末次研究所

に謝せりが八日張勳氏に打電し速かに復讐の海諸族有爲、高麗、
式、梁鼎芬三人を斬りて天下に謝罪すべし、勸告したる